

(内分泌・糖尿病内科)

本年度は大学から長谷川里紗先生（2021 年卒）佐藤駿匡先生（2018 年卒）に出張に来て頂き 片桐 尚と 3 人で診療にあたりました。新患は火曜日は佐藤/片桐、木曜日は長谷川/片桐が担当し、大学から週一回金曜日の午前中に石澤正博先生、月曜日に丹野貴文先生に来て頂きました。

総再来数は2020(丹野 196 石澤 148 長谷川 344 佐藤 467 片桐 865 2025 3 月末)と 昨年より 22 人の減少となりました。

柏崎市内に糖尿病専門の開業医の先生のない中 当地域の糖尿病医療の中心としての役割を継続して担っています。

外来診療は 2024 年 6 月に糖尿病センターが移動し 落ち着いた環境で診療が行えるようになりました。半面 看護師さんが診察の場に加わることがなくなり 糖尿病看護外来も別の部屋で行っているため 診察室では 医師とクラークのみで患者さんに向き合う形となっています。コメディカルの個々の能力は素晴らしいものがありますが患者さんを中心にいかにその情報 能力を有機的に結合し 診療に役立ててゆくかが課題です。

病棟においては、高血糖や合併症をもった糖尿病など緊急性の高い症例を西 5 F 病棟にとって頂き、予定教育入院は東 5 病棟で運動療法もやりながらという体制を組み、両病棟で情報交換をしながら急性期を過ぎたケースを西 5 F から東 5 F に移しながら教育を継続しました。

佐藤先生は 糖尿病教育プログラムを確立し 週 1 回の外来糖尿病糖尿病教室をコメディカルとともに精力的に開催し 患者さんにも好評でした。

また病棟においてもパスを用いた教育入院を実行し 教育入院の質の向上をはかりました。

さらに地域連携をめさし 糖尿病教室への参加 栄養指導への参加のルートを作り 地域全体における糖尿病教育のレベル向上をめざした取り組みを行いました。

また 1 型糖尿病治療に対するミニメドを使った SAP 療法の導入、数多く来るようになった学生や研修医の指導等にもあたって頂き当病院や地域の糖尿病医療のレベルアップに貢献して頂きました。

長谷川先生は専門 2 年目として 一般内科も含めて 積極的に研修に取り組み 当院の内科 糖尿病診療を支えて頂きました。この間 J-oseler の症例をまとめながら 難しい

症例もまとめ 症例報告も行いました。この1年間の進歩には目を見張るものものがあり
人間的にもすばらしく 今後 新潟県の糖尿病医療の中核を担う人材として期待されます。

甲状腺、内分泌疾患においては 原発性アルドステロン症の診断を アルドステロンの
新しい測定系のもと、サンプリングを行い施行錯誤を続けながら取り組んでいる状態です。

引き続き地道に糖尿病患者さんの健康維持、合併症予防に力を注ぎ 地域医療に貢献で
きればと考えています。

(長年にわたるこの地域での透析予防の取り組みにより 当地での透析導入数は
は低く抑えられています。)

以下に臨床統計を示します。

3) 臨床統計

(糖尿病関連) 6月の統計

外来患者のHbA1c	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
5.8%以下	312	256	307	337	280	375
5.9-6.9	540	525	498	534	552	505
7.0-7.9	347	357	355	316	316	344
8.0-8.9	216	189	190	197	204	175
9.0-9.9	87	75	80	75	80	95
10.0-10.9	33	34	22	32	34	33
11.0-11.9	12	10	13	6	15	11
12.0以上	7	8	6	6	12	5
合計(人)	1554	1454	1471	1503	1493	1543
HbA1cの平均	7.04	7.06	6.97	6.94	7.06	6.93

(甲状腺関連)

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
甲状腺エコー	560	474	500	502	543	604
甲状腺細胞診	54	55	44	56	37	41
バセドウ病アイソトープ治療	3	1	5	5	2	0

(内分泌関連)

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
ACTH負荷副腎静脈sampling	1	1	2	2	0	2

人口10万人当たりの透析導入者数

透析学会資料を見て全国と比較しても新潟県そして当地域は低く抑えられています

